

伊丹福音ルーテル教会 復活後第四主日礼拝のしおり

2022年5月8日

前奏

招きのことば：詩編 23 編 1-6 節

【賛歌。ダビデの詩。】主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない。|主はわたしを青草の原に休ませ 憩いの水のほとりに伴い 魂を生き返らせてくださる。|主は御名にふさわしくわたしを正しい道に導かれる。|死の陰の谷を行くときも わたしは災いを恐れない。あなたがわたしと共にいてくださる。|あなたの鞭、あなたの杖 それがわたしを力づける。わたしを苦しめる者を前にしても あなたはわたしに食卓を整えてくださる。|わたしの頭に香油を注ぎ わたしの杯を溢れさせてくださる。|命のある限り 恵みと慈しみはいつもわたしを追う。主の家にわたしは帰り生涯、そこにとどまるであろう。

罪の悔い改めと赦しのことば

会衆： 私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。

私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

牧師： 何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。**アーメン。**

使徒信条

われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。

われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。

主は聖霊によりて宿り、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、限りなきいのちを信ず。 アーメン。

祈り

愛とあわれみに満ちておられる 私たちの父なる神様、心から感謝をいたします。今朝も共に礼拝にあずかり、罪の赦しをいただき、新しいいのちをいただいて 一週間を始めます。

イエス様、よい羊飼いであるあなたは羊のような私たちを導いてくださいます。私たちの罪の赦しのためにご自分のいのちをお与えくださって私たちをあなたの羊としてくださいました。あなたは日々私たちに語りかけ、歩みを祝福してください。どうぞ今週も私たちがあなたの御声をききわけ、あなたに従って歩むことができますように、そして、どうぞあなたにあって豊かな実を結ぶことができますように、導いてください。

新型コロナ・ウィルスの感染拡大を防ぐために、まだ緊張感を保たなければなりません。その中でも すべて御手にゆだね安心して、あなたの子どもとして 生き生きと生きる日々を与えてください。

この祈りを、私たちの救い主であり 主である イエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン**

使徒書朗読：ヨハネの黙示録 7章9-17節

この後、わたしが見ていると、見よ、あらゆる国民、種族、民族、言葉の違う民の中から集まった、だれにも数えきれないほどの大群衆が、白い衣を身に着け、手になつめやしの枝を持ち、玉座の前と小羊の前に立って、大声でこう叫んだ。「救いは、玉座に座っておられるわたしたちの神と、小羊とのものである。」また、天使たちは皆、玉座、長老たち、そして四つの生き物を囲んで立っていたが、玉座の前にひれ伏し、神を礼拝して、こう言った。「アーメン。賛美、栄光、知恵、感謝、誉れ、力、威力が、世々限りなくわたしたちの神にありますように、アーメン。」すると、長老の一人がわたしに問いかけた。「この白い衣を着た者たちは、だれか。また、どこから来たのか。」そこで、わたしが、「わたしの主よ、それはあなたの方がご存じです」と答えると、長老はまた、わたしに言った。「彼らは大きな苦難を通過して来た者で、その衣を小羊の血で洗って白くしたのである。それゆえ、彼らは神の玉座の前にいて、昼も夜もその神殿で神に仕える。玉座に座っておられる方が、この者たちの上に幕屋を張る。彼らは、もはや飢えることも渴くこともなく、太陽も、どのような暑さも、彼らを襲うことはない。玉座の中央におられる小羊が彼らの牧者となり、命の水の泉へ導き、神が彼らの目から涙をことごとくぬぐわれるからである。」

福音書朗読：ヨハネによる福音書 10章22-30節

そのころ、エルサレムで神殿奉獻記念祭が行われた。冬であった。イエスは、神殿の境内でソロモンの回廊を歩いておられた。すると、ユダヤ人たちがイエスを取り囲んで言った。「いつまで、わたしたちに気をもませるのか。もしメシアなら、はっきりそう言いなさい。」イエスは答えられた。「わたしは言ったが、あなたたちは信じない。わたしが父の名によって行う業が、わたしについて証しをしている。しかし、あなたたちは信じない。わたしの羊ではないからであ

る。わたしの羊はわたしの声を聞き分ける。わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。わたしの父がわたしにくださったものは、すべてのものより偉大であり、だれも父の手から奪うことはできない。わたしと父とは一つである。」

讚美歌 147 番

- 1 喜び たたえよ、主は死に打ち勝ち、陰府(よみ)より帰りぬ
※ハレルヤ ハレルヤ ハレルヤ
- 2 勝利(かち)の主 迎えて たたえの花束、御前にささげよ ※
- 3 今日よりときわに 尽きせぬ命は、この世を 潤さん ※
- 4 命の主をほめ、諸声(もろごえ)合わせて この日をたたえよ ※ アーメン

説教：「わたしの手から奪うことはできない」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

イエス様が死人の中からよみがえってくださったイースターの季節です。毎年、礼拝でイースターのご挨拶をしています。「ハレルヤ、イエス・キリストはよみがえられました」と言いますから、皆さんは、「ハレルヤ、イエス・キリストはたしかによみがえられました」とおっしゃってください。

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました！

イエス様は言われました。「わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。」わたし、とはイエス様ご自身のこと、彼ら、とはイエス様を信じて従う羊の群れ、そしてイエス様の手からだれも羊を奪うことができない、という力強いお言葉です。

イエス様が生まれつき目の見えない盲人の方の目を見えるようにしてくださったことから、多くの方がイエス様のことをいったいどういうお方だろうか、と考えるようになりました。ある方は神様から遣わされた救い主ではないか、と言いました。でも宗教家たちはそんなはずはない、おそらく悪い霊にとりつかれて人をまどわす偽ものだと考えて、否定的でした。人々の間で、イエス様がどういうお方なのかということで対立が生じたのです。

ちょうどエルサレムでは神殿奉獻記念祭というお祭りが行われました。冬の、風のつよい時期でした。ハヌカーというお祭りとして今も祝われることがあるお祭りです。これはかつてアン

テオコス・エピファネスという悪い王様が旧約聖書の信仰を迫害していたことに対して、ユダヤ人のユダス・マカベウスという英雄がエルサレムの神殿を取り返して再び聖なる場所とした勝利を祝うお祭りです。ヘンデルは「ユダス・マカベウス」という曲を作曲しました。喜べや、たたえよや、と、よく表彰式でうたわれる凱旋歌です。今は復活の喜びの讃美歌として親しまれています。

神殿奉獻記念祭にはたくさんの方がエルサレムに来ました。ローマという強大な国の支配下だったので、ユダス・マカベウスのような英雄が現れないかな、と、人々はそんな救い主を期待していました。しかし、英雄が出て、ユダヤの人々が念願にしていた自由や豊かさを一時的に得たとしても、人々の根本的な問題は解決しません。神様はすべての人が罪を赦されて神様との信頼の関係が繋がって、神様を喜び人々を愛する新しい心で生きがいをもって歩むことができるように、救い主イエス様をお遣わし下さいました。

そのイエス様が祭りのさなかにエルサレム神殿の回廊を歩いているところに、ユダヤの民の指導者たちがあらわれてイエス様を取り囲みました。殺気立ってイエス様に詰め寄っています。イエスよ、あなたがメシア、救い主なのか、と問いただしています。イエス様は脅迫に動じることなく、わたしはそう言っているがあなたがたはそう信じていない、とお答えになりました。おそらく民の指導者たちが待っていた救い主は、あのユダス・マカベウスのように、自分たちを解放して自由と豊かさを与えてくれるような政治的で軍事的な英雄でした。確かにイエス様は、目の見えない人を見えるようにするという、旧約聖書で預言された救い主の特徴を持っています。しかし、イエス様はわたしはよい羊飼いであり、よい羊飼いは狼がくると羊のためにいのちを捨てる、と言っておられます。いのちを捨ててしまわれたら人々はどうなるのか、本当に神様が遣わされた救い主なのか、といぶかしく思っていたようです。

私たちがどんな救い主を待っているか、というと、自由で豊かな幸せな生活を与えてくれる救い主を思い描くことがないでしょうか。そして、自分が神様によく従って、神様に喜ばれる生活をしたら、その暁には自由で豊かな生活が待っていると漠然と思うこともあるでしょう。しかしそれでは、一見羊飼いに従う従順な羊のふりをしていますが、その実、むしろ神様を自分の思い通りに動かそうとしてしまっているのではないのでしょうか。

イエス様は私たちの心をよくご存じです。私たちに罪の赦しが必要なことをご存じです。そして十字架で死んでくださって神様の前で私たちの罪を赦して下さるため、そのようにして私たちがまことの神様の子どもにしてください、永遠のいのちを与えるために遣わされました。イエス様は言われました。「わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。」私たちはイエス様のこの約束の声を私のために語られたことと信じて感謝をします。そしてイエス様を通して父なる神様にお祈りをします。あなたの愛する独り子のイエス様によってわたしの罪は赦されました。感謝をいたします。聖書を通して私たちに語ってくださるあなたの御

声を聞きます。愚かで、無力で、迷いやすい羊のような私たちです。よい羊飼いであるイエス様によって、どうぞ私たちを導いてください。このようにお祈りしながら、赦された感謝をもって新しいのちをはつらつと生きていきます。

死んでよみがえってくださったイエス様を信じて、洗礼を受けた人は、世界とあなたをおつくりくださった父なる神様の愛を受けて人生を歩みます。神様はイエス様を通して、私たちの祈り、私たちの思いや願いをいつも受け止めてくださいます。けれども人生には、私は神様としっかり結ばれているのだろうか、と疑問に思ったり確信が揺らいだりすることも事実です。出口が見えない苦しみの中にいるときです。しかし、今日与えられているみ言葉によりますと、私たちが必死でイエス様の手を握らせていただいていたというよりも、イエス様が私たちの手をとって導いてくださるのです。そのようにイエス様が導いてくださいますので、誰もイエス様の手から私たちを引き離して奪い去るものはありません。

自由が制限されているような苦しいときも、食べるものも満足に見つけることができなくて貧しくてひもじいときも、人間関係のはざまでもとても苦しい思いをしているときも、いつこの苦しみやむなしさや不安から自由になれるのだろう、と心細く、絶望的になるときも、イエス様は一時的な解決よりも本当に大切な根本的な罪からの自由と、いのちのいぶきの豊かさをあたえてくださいます。誰かのたたりで苦しい目にあっているのではなく、自分の足りなさでばちがあたっているものではありません。そこから自由にされています。また、何をしても同じことだ、もうあきらめよう、と絶望するのではなく、愛する子どもを練り鍛える父なる神様の御手に導かれて、試練を乗り越え、またその中で人々に祝福を分かち合う命を生きていきます。

私たちは、私たちを決して見捨てず、決して見放さない神様に信頼します。イエス様が羊飼いとして共に歩んでくださいます。私たちは命がけで愛して下さるイエス様の羊として、試練を乗り越えていきます。人々とともに幸せをつくっていくのちを生きていきます。私たちはイエス様の囲いに入っていなかったのに、命を捨てて罪を赦して下さる羊飼いのイエス様によってイエス様の羊に属するものとされました。イエス様の大きな権威のもとで、神様を信頼して人々の役にたって歩みます。そして誰も私たちをイエス様の手から奪うことはできません。

ユダヤ人の指導者たちも、また、民衆も、イエス様がこのようなすばらしいまことの救いを与えて下さる救い主だということを信じていませんでした。それでイエス様に、あなたはほんとうに救い主なのですか、と尋ねました。イエス様がご自分を神様と同じ本質を持つものだと いわれることにも納得がいっていませんでした。それは聖なる神様を冒瀆する、死に値する罪ではないか、と考えていました。神様ならなんとなくわかる。しかし歴史の中に人として来られたイエス・キリストは神様なのかどうか、という、そんな疑問です。

イエス様は続いて言われました。「わたしと父とはひとつです。」イエス様は父なる神様とひとつです。イエス様は父なる神様の独り子として遣わされ、人となりました。それは命の源である神様から離れて死を選んでしまった人類のかわりに、人としての正しい生涯を送り、全人類

の罪の罰を受けて死んでくださるためでした。そして父なる神様はイエス様をよみがえらせて、イエス様が罪と死と悪魔の力に打ち勝って、私たちの罪の赦しが完成し、私たちが神様の子どもとして新しい復活の命を生きることができるようになりました。イエス様は復活後四十日間多くの人にご自分を現わされました。弟子たちの見ている前で挙げられて雲に隠されました。イエス様と父なる神様はひとつです。私たちは父なる神様からイエス様のゆえに赦されて神の子とされました。そしてそのあと聖霊なる神様が約束通り信じて洗礼を受ける人々に与えられて、み言葉と聖礼典を通して私たちの信仰を起こし、また強めて、永遠の命に至らせてくださいます。父、御子、御霊のひとりのまことの神様は、私たちをつくり、また新しくし、私たちを救い、また羊飼いとて導き、そして私たちに祈りのことばを与え、神の子として新しいいのちを生きるように働き続けてくださいます。今週も私たちはこの神様のみわざと愛に感謝をし、安心しましょう。また私たちも隣人を赦し、隣人の希望となって歩み、神様の祝福を暮らし中で実現しましょう。

わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びず、だれも彼らをわたしの手から奪うことはできない。ヨハネによる福音書 10章 28節

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってください。アーメン

牧師：ハレルヤ、イエス・キリストは、よみがえられました！

会衆：ハレルヤ、イエス・キリストは、たしかに、よみがえられました。

讚美歌 191番 献金 献金感謝の祈り

- 1 いともとうとき 主はくだりて 血のあたかもて 民を救い
きよき住居(すまい)をつくりたてて そのいしずえと なりたまえ
- 2 四方(よも)のくにより 選ばるれど 望みもひとつ わざもひとつ
ひとつのみかて とともに受けて ひとりの神を おがみたのむ
- 3 数多(さわ)の争い み民をさき 世人(よびと)そしりて 悩むれども
神はたえざる 祈りをきき 涙にかえて 歌をたまわん
- 4 世に残る民 去りし民と とともにまじわり 神をあおぎ
とわの安きやすきを 待ちのぞみて 君の来ますを せつに祈る **アーメン**

主の祈り

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。

われらを試みにあわせず、悪より救い出されたまえ。

国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

頌栄：讚美歌 543 番

主イエスの恵みよ、父の愛よ、御霊の力よ ああみ栄えよ **アーメン**

祝福の言葉

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しき
お交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、
豊かにありますように。 **アーメン**

後奏